

## 学術情報

## 第9回 学内免疫談話会プログラム

時 間 平成元年7月1日(土)午後1:30より

会 場 東京女子医科大学 中央校舎1階会議室

会長挨拶

吉岡守正(学長)

座長 宮坂信之(リウマチ痛風センター)

1. B型慢性肝炎発症機序の解析  
鴨川由美子・大図亨子・八尾建史・春田郁子・鈴木義之・  
長谷川潔・石川隆二・徳重克年・山内克巳・小幡 裕  
(消化器病センター内科)

2. アトピー性皮膚炎における血清 IgE 値と、末梢血 Fcε レセプター  
陽性細胞の動態  
檜垣祐子・川島 真・肥田野信(皮膚科)

3. TCR-γδ 細胞のクローニング  
押味和夫(第1内科)

座長 山内克巳(消化器内科)

4. インスリン自己免疫症候群とインスリン依存型糖尿病の  
両インスリン自己抗体の相違  
内潟安子・平田幸正(糖尿病センター内科)
5. HTLV-1感染と多臓器疾患(HTLV-1 related complex)  
佐藤和人・中嶋ゆうこ・  
谷口敦夫・北嶋 勲・西岡久寿樹(リウマチ痛風センター)

6. ベーチェット病患者由来の Streptococcus sanguis の  
抗原特異性について  
神力祐子・渡辺千恵美・宮永嘉隆(第二病院眼科)

座長 早坂勇太郎(腎臓外科)

7. 胃 RLH の免疫組織学的検討  
長谷川かをり・笠島 武(第2病理)
8. 脾白髄の基本構制を通して観た免疫の器官化  
河上牧夫(第1病理)
9. ブドウ球菌外毒素 toxic shock syndrome toxin-1 (TSST-1) は  
ヒト HLA クラス II 分子に結合して T 細胞を活性化する  
内山竹彦・今西健一・荒明美奈子・  
斎藤慎二・巖 小傑・河内 章(微生物)

座長 小川健治(第2病院・外科)

10. ヒト natural killer cell (NK) activity の interferon-α  
による活性化の機序  
川内喜代隆(第二病院内科)

11. 肝細胞癌と反応し、異なった特異性を有する単クローン性抗体と  
その生物学的特性  
大図亨子・長谷川潔・徳重克年・古川隆二・鈴木義之・  
春田郁子・鴨川由美子・八尾建史・孫 野青・山内克巳・  
小幡 裕(消化器病センター内科)

12. 自己肝癌に対する特異的キラー細胞の誘導と臨床応用  
有賀 淳・山内克巳・古川隆二・  
小松達司・矢川彰治・次田 正・高崎 健・小林誠一郎・  
小幡 裕・羽生富士夫(消化器病センター外科・内科)

座長 湯村和子(腎臓内科)

13. 胃癌術後補助免疫化学療法について  
小川健治・矢川裕一・石川信也・  
平井雅倫・梶原哲郎(第二病院外科)

14. 免疫抑制剤 MX-1 (K-76COONa) の免疫抑制効果と補体活性  
阻害効果に関する基礎的検討  
早坂勇太郎・河合達郎・東間 紘・高橋公太・

寺岡 慧・太田和夫（腎臓病総合医療センター外科）

## 15. 抗ヒトリンパ球抗体の反応特異性と免疫抑制に関する基礎的検討

早坂勇太郎・高橋公太・寺岡 慧・東間 紘・  
太田和夫（腎臓病総合医療センター外科）

座長 押味和夫（第1内科）

## 16. 異種間心移植

榎原尚豪（心臓血圧研究所外科）

## 17. Rat 同種腎移植における deoxyspergualin と DST の併用効果に関する検討 第1報

田辺一成（腎臓病総合医療センター泌尿器科）

## 18. ラット腎移植片拒絶反応に対するコレラトキシン、シクロスポリンの併用効果

次田 正・高崎 健・小林誠一郎・  
羽生富士夫（消化器病センター外科）

座長 今西健一（微生物）

19. マウス BSA 腎炎における細胞性免疫の関与  
—FACS 解析を中心に—

湯村和子・内田啓子・杉野信博（腎臓病総合医療センター内科）

## 20. 肝細胞表面に発現される IL-2レセプターの構造と機能について

長谷川潔・大岡亨子・

徳重克年・古川隆二・鈴木義之・春田郁子・鴨川由美子・八尾建史・  
孫 野青・山内克巳・小幡 裕（消化器病センター内科）

## 21. 多種白血病細胞における IL-2レセプターβ鎖の発現

星野 茂・押味和夫・溝口秀昭（第1内科）

## 1. B型慢性肝炎発症機序の解析

（消化器内科）

鴨川由美子・大岡 亨子・春田 郁子・  
鈴木 義之・徳重 克年・八尾 建史・  
古川 隆二・長谷川 潔・山内 克巳・  
松原 謙一・小幡 裕

B型肝炎ウイルスは、ヒトに急性・慢性肝炎肝硬変といった肝細胞障害を誘発するウイルスである。肝障害は主として宿主の免疫反応によって起こされると考えられ、我々はこのメカニズムを解析するため、実験モデルを作製した。まず HBc, sAg を code する DNA を、ヒト myeloma cell に導入し、各々の蛋白を細胞表面に出させた標的細胞を作製し、これと同じ HLA を有する慢性肝炎患者末梢血リンパ球の cytotoxic activity を<sup>51</sup>Cr release assay にて確認した。この結果 B型肝炎患者では sAg(+)細胞に対し、35.1% (control NANB 12.5%)、cAg(+)細胞に対し 34.1% (control 12.8%) と有意 (p<0.01) に高く、患者末梢血リンパ球中に HBV 関連抗原表出細胞を認識し破壊する細胞が存在することが示唆された。

## 2. アトピー性皮膚炎における血清 IgE 値と、末梢血 Fcεレセプター陽性細胞の動態

（皮膚科）

檜垣 祐子・川島 真・肥田野 信  
アトピー性皮膚炎における血清 IgE 値と末梢血

FcεR<sub>2</sub><sup>+</sup>細胞を、気道アトピーを合併しない群 (pure AD)、合併する群 (combined AD) で比較検討した。Combined AD では、IgE、FcεR<sub>2</sub><sup>+</sup>細胞とも上昇を示したが、pure AD では IgE は比較的軽度の上昇を示したのみであった。重症度との関係を見ると combined AD では IgE は重症度とよく相関し、また軽、中等症の combined AD で FcεR<sub>2</sub><sup>+</sup>細胞の上昇を認めた。Pure AD では、IgE と重症度は相関せず、FcεR<sub>2</sub><sup>+</sup>細胞の有意な上昇もなかった。

まとめ：IgE は combined AD では皮疹の形成または重症化に重要な役割を有しているが、pure AD ではあまり関与していない可能性があり、pure AD と combined AD とは発症機序の上からも異なるグループである可能性が示唆された。

## 3. TCR-γδ細胞のクローニング

（第1内科）押味 和夫

TCR (T-cell receptor) が γδ鎖を有する T細胞をクローニングして、そのキラー活性を検討した。γδT細胞が増殖している2症例の末梢血単核細胞から immunobeads 法により γδ<sup>+</sup>細胞を分離した。これを feeder cell, PHA, IL-2の存在下に増殖させて microculture well にてクローニングした。増殖した細胞は BB3<sup>+</sup>δTCSI<sup>-</sup>か BB3<sup>-</sup>δTCSI<sup>+</sup>の γδT細胞で、強い MHC 非拘束性キラー活性を示し、その活性は抗 CD3, 抗 γδmAb により抑制された。このクローンは CD16<sup>+</sup>